

## 令和2年度第1回栗東市地域包括支援センター地域密着型サービス運営協議会（会議要旨）

- 日 時：令和2年7月9日（木）15:00～16:10
- 場 所：栗東市役所2階 第1会議室
- 出席委員：堀委員、市木委員、稗田委員、渡邊委員、富永委員、船元委員、宮武委員、竹村委員、安井委員、村山委員、青木委員、松浦委員（出席者 12名）
- 欠席者：なし
- 傍聴者：なし

### 1 開会

### 2 市民憲章

新型コロナウイルス感染症予防のため省略

### 3 挨拶

会長、健康福祉部長

### 4 協議事項

#### (1)地域密着型サービス事業について

##### ①地域密着型サービス事業所の運営状況

##### ②第7期介護保険事業計画実績報告

<資料1><資料2>により事務局より説明

#### <資料1、資料2について質疑応答>

委員：介護サービスの利用で、予防の方が計画値よりも多いことの原因や栗東市のサービスの利用の特徴についてわかれば教えていただきたい。

事務局：計画を立てる際の基となる、平成28年、平成29年度の予防の方の利用が少なかったことが考えられる。特徴は予防介護ともに訪問リハビリが多い。本市の利用者はリハビリのニーズが高い。また、介護サービスのきっかけとして導入されているのではと分析している。

委員：要介護度別の認定者数として、全体マイナス4.5%。今後の予測はどうか。

事務局：過去の要介護度別認定率、高齢者の認定率を推計しているので、予測は難しい。高齢化率の伸びが抑えられていることからではと推測している。

#### (2)地域包括支援センター運営について

##### ①令和2年度地域包括支援センター設置状況について

##### ③令和2年度栗東市地域包括支援センター運営方針について

<資料3><資料5>により事務局より説明

②令和元年度事業実績報告 各地域包括支援センターの事業実績報告について

④令和2年度栗東市地域包括支援センター事業計画について

<資料4><資料6>により、各地域包括支援センターよりそれぞれ説明

<資料3から資料6について質疑応答>

委員： 個別地域ケア会議の開催について、3つの圏域包括での傾向があれば教えて欲しい。例えば、認知症に絡んだケースなのか、経済困難ケース、ごみ問題、地域での傾向があれば。

栗東包括： 権利侵害、虐待に関わったケースで地域の方にも入ってもらったケース、認知症の方も地域の方のご協力をいただいた。

栗東西包括： 認知症の方がほとんどで、困難ケースに偏っている。今年度は、精神疾患の方もあった。

葉山包括： 認知症、虐待、精神の方もあり、特に身寄りがない方。解決に結びつけることは難しいが、地域の方と相談をしながらではある。

委員： 各センター長の運営も市から預かれて軌道に乗ってきた頃かと思われる。各センターにおいて、どういった問題を重要視されているのか。

葉山包括： 地域の特性として、高齢化率も高く、古くからの団地に高齢化世帯も増えてきている。そういったところに、認知症、困難な疾患を発症されて、地域でいつまで暮らし続けられるかということを念頭に置きながら話をしている。独居の方は、生活支援があれば何とかやっつけられる部分もあるが、その見守りがないために難しい場合もある。

栗東西包括： 認知症に特化している。それに伴い、家族支援にも力を入れてと思っているが、スタッフの力不足があり、今年度、力を入れていきたい。

栗東包括： 古い街並みと新しい新興住宅、県営住宅と様々な地域課題。独居、高齢世帯、介護力が弱く、情報が入ってこない方への支援の必要性も感じている。本日も、民生委員がいない地区で、災害の時に、独り暮らしで何かあればどうしたら良いかという相談があった。

委員： 各センターにプロの方がいて安心はしているが、普段から、関係機関と密にしてという計画。大変だと思うがこれから継続して地域の見守り活動を一緒にやっていたらと思う。

委員： 栗東西地域包括の相談件数に、銀行からの相談があったと記載あり、どのような内容だったのか。

栗東西包括： 認知症の方で、口座からお金をおろされるが、覚えておらず、自分でおろしたんじゃない、銀行の人が勝手におろしていると言われて対応に困っておられ、銀行から、本人について、包括で支援をされているか問い合わせがあった。個別ケア

会議を開催して、銀行からの困りごとを聞き、本人の状況を分かっていただき、包括でできることも伝えた。銀行からは、自分たちの関わりにも問題があったと言われて、開催してよかったと感じた。

委員： 認知症カフェのことを聞きたい。カフェの普及を計画されているが、どんなことをしているのか、イメージできておらず教えて欲しい。金勝と大宝に2つあるのでよいか。

事務局： 地域密着型の事業所が実施。認知症の方の居場所として、また、家族が相談できる場所になる。大宝の郷とこんぜの郷の2か所で実施。大宝は毎週水曜日に居場所のような形で開催。こんぜの郷は2か月に1回催しのような形で開催。決まった形が明確にあるわけではなく、認知症の方が来て、相談があった際には相談対応もできるという形でされている。それ以外にも、地域の中で身近なところでできないかと検討をしているところではある。

委員： 介護施設の一室がカフェになっているイメージか。

事務局： 今現在はそのとおりである。

委員： 葉山地域包括では、社会福祉士が1人であるので負担等どうなのか。

葉山包括： 人口割りでの体制になる。3職種が揃い、体制としてはとっている。虐待については、3職種一緒に動き、困難事例も包括職員が協力し合っている。一人に負担がかからないように、ワンチームとなって実施している。

委員： 安心した。

委員： 3センターそれぞれ、相談対応含め多くの事業を実施されている。総合相談、対応の実件数等を記載あるが、葉山地域包括であれば、数年前からされているので、相談件数が経年的に見てどうか等も評価していけるのではないかと。既に住民には周知ができている分、早い段階で相談につながっているのか等見ていけるのでは。地域に十分に知ってもらっているのであれば、ネットワークが構築できているのかや、早く繋がった事例があった等もあれば、分かりやすい。年間計画はあるが、何をどのくらいとあれば、評価しやすいと感じた。

栗東地域包括はネットワークの構築として、開業医や地域の方から相談が入るようになったと記載あり、直接相談があったのは何件か教えていただければ、今後、どれだけ進んでいるのかどうか分かる。

ケアマネジャーへのアンケートについて、課題を次へ活かしてとあるが、どのような課題があったのかを教えていただければ。

事務局： 相談等の情報についてはシステム入力しているので、相談経路や経年的にも見ていけるので、今後、いただいた意見を参考に資料作成等工夫していきたい。

栗東包括： アンケートは、困っていることや市に望むこと等を聞いた。ケアマネジメント作成で悩んでいるという事や勉強会や民生委員との交流等の希望もあった。当初予定していた計画が、コロナの影響で頓挫している。現在、予防マネジメントのマニュアルを作成中。

⑤介護予防・介護予防ケアマネジメント 委託事業所一覧について

⑥令和2年度栗東市地域包括支援センター運営協議会年間計画について

<資料7><資料8>により事務局より説明

(3)認知症初期集中支援事業の運営状況について

<資料9>により事務局より説明

・閉会

副会長よりあいさつ

事務局あいさつ